

# じろう歯科通信

2007年

11月27日

第4号

## 歯周病と心疾患

歯周病は口の中だけの病気ではなく、様々な全身疾患をおこりやすくしている可能性が高いことがわかってきました。今回は歯周病と心疾患の関係についてお話しします。

口腔内には 500 種類以上の細菌が存在しますが、歯周ポケット内細菌のほとんどは、グラム陰性桿菌とスピロヘータと呼ばれる細菌です。これらの細菌は、何らかの原因で血流中などに入り込むと、より強い病原性を持つようになります。

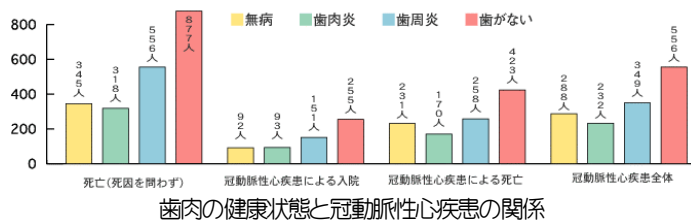
もちろん健康な人では、血液の中にこれらの細菌が少し入ったとしても免疫系の働きにより、速やかに駆逐されてしまうので問題はありません。

しかし血流に入り込む菌の数が多かったり、免疫力が低下している人では、致命的な感染症になることがあります。

歯周ポケットが深くなると、細菌は血流に侵入しやすくなります。歯周病の人は歯みがきをしたり、食事中に物を噛んでいるときでも、歯周ポケット内の細菌が歯肉の上皮を通り抜け血管内に入り込みます。

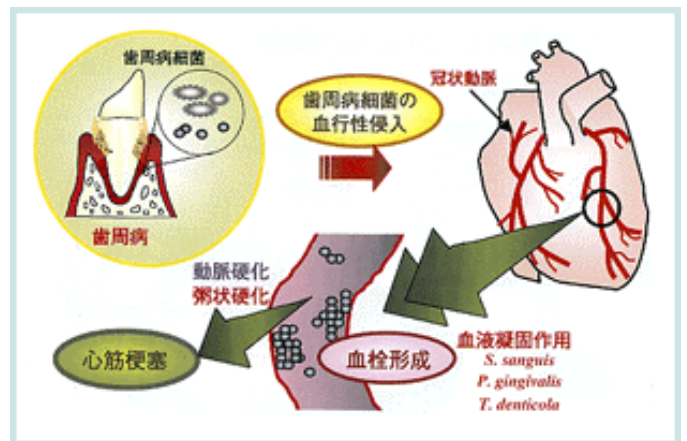
また、心臓の弁膜に障害がある人では、血流中に入った細菌がその部位に付着して増殖し、細菌性心内膜炎を引き起こすことが知られています。

ある調査によると、重度の歯周病で歯を失った人が冠動脈性心疾患によって死亡・入院するリスクは、歯周病にかかっていない人の 1.8 倍、心疾患による死亡になるとそのリスクは 2.8 倍になることがわかります。



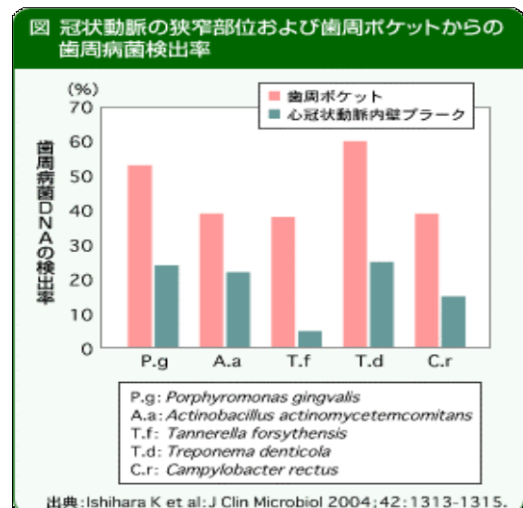
歯周病菌が動脈硬化性疾患の発症や進展に関わっているメカニズムのひとつとして、歯周病菌が作り出す毒素成分(内毒素)が関わっている可能性があげられます。内毒素は、好中球やマクロファージといった免疫細胞に取り込まれて血液中に運ばれ、血管壁などで炎症性サイトカインの産生を促し、コレステロールの沈着や細胞傷害などを起こすのではないかと考えられています。

また、ある種の歯周病菌が持っている血小板凝固因子が直接心臓冠動脈血管に血栓を形成するように働いて血管腔を狭めるとも考えられます。



歯周病と心疾患との関係

心臓の冠動脈の狭窄部位の血管内壁から 5 種類の歯周病菌の DNA が見つかったという報告もあります。歯周病菌の検出率は、患者の歯周ポケットの深さと関連することもわかりました。



出典: Ishihara K et al: J Clin Microbiol 2004; 42: 1313-1315.